

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の中で暮らす事を常時意識しながら、入居者のニーズ・理念に沿い取り組んでいる。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>業務内容が理念に沿っているか確認しながら、全職員で取り組んでいる。事務所に運営理念を掲示している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念を理解して頂ける様、家族・地域との連携や連絡を密に考え取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>外出時に声を掛ける事を心がけ、関係づくりに努めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の夏祭りや行事に参加し、交流を図っている。</p>	<p>○ 今以上に自治会に働きかけ、交流を図ってきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いの機会を取りながら、認知症介護の方法・施設の受け入れ相談に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や業務の中で評価をもとに改善策を話し合い、業務改善に取り組んでいる。	○	サービスの質の向上を図る様、全職員で検討し改善に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回実施。状況報告し、その内容について質問を受けたり意見を出し話し合っている。	○	地域密着型サービスとして、地域の人達と連携を図り向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に状況報告をし、事業所の考え方・運営を伝えている。	○	今まで以上に市と連携を図り、情報を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の知識を深め、利用者の相談に活かせるよう支援体制を整え、職員と話し合っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係機関の虐待の資料をもとに話し合い、個々意識を高めている。事業所内の虐待はみられない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書に沿って十分な説明をし、その都度確認し納得を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者は自分の思いを職員に日常的に話している為、会議の中で検討している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時は時間をとり、報告を行っている。面会の少ない家族へは、定期的に電話にて報告し信頼関係を築いている。</p>	<p>○ 遠方の家人には、ホームページで情報提供を行い、安心して頂ける様もっと取り組んでいきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見・不満・苦情はサービスの質の向上を図るのに活かせる機会であるので、話しやすい場を作っている。</p>	<p>○ 家族会や運営推進会議で積極的な意見を出して頂ける場を増やしたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全職員の意見を日常業務や普段の話しの中から素直に聴く様、心がけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>よりよいサービスを提供できるよう、その都度相談しながら臨機応変に対応したり調整を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職場の異動時は、入居者の言動にいつそう注意をし対応し支援を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月定例のプロジェクト会議を通して、管理者クラスの資質の向上を図ってきた。成果については、ある程度の効果はみられるが各人の温度差もある為今後も継続していく。</p>	<p>○</p> <p>今後のプロジェクト会議には、スーパービジョン等も取り入れ各事業所のリーダーの育成に注力していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の方々が参加されている運営推進会議の皆様との交流をベースに、同業者も参画される交流を図ればと考えている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員、入居者、家族も含めたストレス解消に役立つ対応を図っていききたい。</p>	<p>○</p> <p>地域住民参加型の事業等も職員参加型で検討していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の能力、実績等を適格に評価し、各種処遇につなげている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>極力本人とお会いし、本人自身から話を聴き、細かいところまで不安・希望をくみ取れるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から話しをよく聴き、より深い信頼関係が築けるよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から話しをよく聴き、今何の支援が必要かを判断しサービスの調整を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が安心してサービスを受けられるよう、見学の機会を多くとり職員との面談・相談を通じサービスを利用して頂いている。	○	体験入居で本人・家族が安心して納得できるようサービスを利用して頂きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をさせて頂いているという思いで入居者に接し、一人ひとりの入居者の個性を大切に日常生活を過ごし関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、より良い支援の方法を家族との話し合いの中で、職員・家族間で考えコミュニケーションを取っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が本人との関係を築いていけるよう、日々の状況を電話連絡や面会時に説明し支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人に、知人や友人との関係を尋ねて社会との関係が途切れないよう、面会や電話で支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格や生活歴を把握し、皆が共に穏やかに過ごせるよう支援に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の状況を把握し、必要であれば相談や支援に応じる体制づくりを取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が日々の暮らしの中で、入居者がどのような暮らしを希望しているか、どのような思いでいるかを見取っている。	○	家族・知人からも情報を得て、職員各自が本人の立場に立ち支援に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や周辺状況は支援する上で大切なことなので、情報は得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が入居者の状況を把握し、残存機能に応じ生活して頂ける様に努めている。	○	共有できる情報は申し送り、会議等で把握し全職員で支援に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員一人ひとりが意見を出し合い個別の介護計画を作成している。個人が何を望んでいるのかを皆で考え大切にしていく。	○	家族の意向も聞き、本人にとってよりよい介護計画書作りに努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、目標設定期間の終了前、本人の状態変化時・家族の要望に応じ実施している。	○	職員一人ひとりが違った目で入居者の変化やニーズを見逃さない様、気づきを養っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌の記録は職員が共有し支援に活かしている。介護計画見直し時の参考になっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の要望や気持ちに応じて、臨機応変に対応し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の人達の協力を得ながら支援を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前の入居者のケアマネジャーに情報を得たり、他の事業者と連携を取り協力し情報交換を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本事業所で不確かなこと、解決困難なこと等を地域包括支援センターに確認を取り、協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に連絡・相談の上、同意を得て行っている。意思表示のある場合は、本人の希望及び納得を得ることはもちろんである。	○	医療機関との密な連携を基本に、努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に1度、必ず心療内科医師の往診があり、相談ができています。	○	医師との信頼関係を築き、支援できるよう努めている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が事業所内に常時おり、入居者の日常の状態を把握しており、介護職員と連携を取っている。	○	今後も密な関係を大切にし、健康管理に努めたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院等との連絡・連携を密に行い、情報交換をすることで入退院の相談に応じている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を家族に説明し、同意を得て支援を行っている。	○	急変時に迅速に対応できるように、関係機関との良好な関係を築いている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護職員と介護職員との良好な連絡・連携を図り、チームワークで支援が出来るような方針をとっている。	○	医療機関(主治医)・家族と連携しながら、安心・安全に暮らせるよう努めている。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	個人的な情報やプライバシーの保護に配慮しながら、継続的な支援を行えるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保は基本であると全職員が認識し心がけている。	○	職員同士、注意するよう心がけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に入居者の行動や態度・発言などで把握できるように努めて、入居者の意向に沿うようにしている。	○	入居者に毎日寄り添うことで、何が大切かを個々見極め支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位の生活をして頂けるよう見守り、支援している。	○	言葉で伝えることのできない入居者にも、生活の中で把握できるよう職員同士話し合いながら努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回ホーム専属の理容師に来て頂いている。特に入浴後の身だしなみには気を配っている。	○	自己決定できる方は本人の好みで服を選び、意思表示できない入居者には家族の方に尋ね支援するようしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会・祝日は普段使わない箱膳で、日常より一品二品違ったメニューで嗜好を変えている。入居者が出来る下準備や片付けなども一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者のその日の体調を把握し、好みに応じて飲物やおやつを提供している。出来るだけ手作りのおやつを心がけている。	○	入居者とコミュニケーションを取りながら各自の味付けなどに留意している。行事の時は、お酒も提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員が排泄パターンを把握し、定時及び個々に応じた排泄にて支援している。	○	立位が少しでも取れる方は、2人介助にてトイレに行って頂けるよう支援に努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に沿って、いつでも入浴して頂けるよう個人入浴にしている。失禁時や希望時にも対応している。	○	機械浴の設置があるので、状態に応じてゆっくりと入浴できるよう支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者自身の生活習慣に応じ、快適に休息して頂けるよう室温などにも留意している。	○	昼夜の区別をして頂けるよう規則的な生活パターンをし、必ず1回のシーツ交換を実行している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが役割りを持てるよう支援し、利用者自身の立場に立ち何が出来るか、何をやりたいかを職員が見極め話し合いをし支援している。	○	残存機能により、入居者一人ひとりの役割りを持って頂き自分らしく生活できるよう支援に努めたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理を行いたい入居者には、家族と相談の上支援している。基本的には、ホームで管理するよう対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特に天気の良い日は、季節感を感じて頂けるよう散歩や戸外での時間を大切にしている。	○	入居者の体調などに応じ、外出する機会を得られるよう常に体制を整えていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春には花見、夏にはお祭りなど家族とも相談しながら機会を作っている。	○	外出は入居者にとっても大きな気分転換にもなる為、できるだけ多くの機会を得られるよう支援に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、手紙や電話は入居者の希望に応じ支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時にはゆっくり過ごして頂けるよう居室へ案内し、椅子を用意し湯茶を出し居心地の良い空間作りに配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が安心し、事故に注意しながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけず、外に出るとチャイムでわかるよう対応している。外へ行っても見守りの支援をしている。	○	自由に外へ出て行けるよう配慮し、見守り支援に努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在や行動を把握し、行動を予見し安全確認に徹している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物は、職員で話し合い注意しながら保管・管理をしている。入居者の状態に応じて、持っている方にはその都度注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や緊急時の対応マニュアルを置き、職員全員で認識を高め、事故防止に取り組んでいる。	○	事故報告、ヒヤリハットで事故再発防止に努め、その都度見直・改善している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変や事故発生時に備え、研修を行っている。また、マニュアルを置き全職員で確認している。	○	全職員が落ち着いていて対応できるよう訓練を重ねたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を春と秋に職員・入居者と一緒に行っている。職員の間でも話す場を設けている。	○	地域の人々の協力が得られるよう、運営推進会議等の場で話し合っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の安全を第一に考え、家族との信頼関係を取り行っている。	○	一人ひとりのリスクを予見し、その都度各家族と話し合い、納得して頂けるようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎回の日常的な状態の悪化、バイタルチェックに努め、迅速な対応が出来る様備えている。	○	看護スタッフと介護スタッフとの連携を密に、情報の交換や共有を大切にしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人、個別のケースを持ち、説明書も添えている。一人ひとりの薬に関する理解を基本とし事故のないよう注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各自の便秘の原因を見極め、予防に努め食事や水分補給等で工夫し自然排便できるよう対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	残存歯を大切にする為、残存機能を引き出すよう努めている。協力歯科医師の随時往診があり、口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立によって、栄養バランスは出来ている。水分不足にならないよう入浴後や季節に応じて、お茶・冷茶・コーヒー・紅茶で各自に合った水分補給に注意している。	○	管理栄養士と相談しながら、個別支援を重視していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルに沿って、職員全員で感染防止に努めている。特に手洗い・うがいに心がけ、対応している。	○	早期の情報を得るよう、他の事業所と密に連携を取っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は高温処理出来る設備を使用している。調理場は常に清潔に、調理前は必ず手洗いを心がけている。食材等は、毎日新鮮な時期の物を仕入れバランス良く取り入れている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夜間以外は施錠せず、いつでも出入りできるようにしている。家庭の延長を思わせるよう花や植物などを置き配慮している。開放的・安心感のある雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごして頂けるよう、できるだけ日中は太陽の光を感じて頂き、各室外が眺められるようになっている。	○	どこからでも眺められる中庭には、季節を感じて頂けるよう花や植木などを置き管理している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはベンチなどを設置し、自由に過ごして頂けるよう居場所作りに工夫している。	○	中庭や座敷などのスペースを自由に使って頂けるよう雰囲気づくりをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が愛用していた家具や使い慣れたものを置いて頂き、安心して過ごせるような空間を作っている。家族とも話し合っって空間づくりに努めたい。	○	プライバシーを大切に取組んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃時には換気をし、季節に応じて空調の調整には注意している。空気清浄機や換気扇を利用し、常に空気の淀みがなく過ごせるよう心がけている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりの設置もしている。安全面は特に留意し自立支援を心がけている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には職員手作りの表札をかけ、トイレの表示もわかるようにしている。	○	混乱し失敗のないよう職員同士注意し、例え失敗があってもプライバシーが守れるように配慮している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には、テーブルや椅子も設置している。建物の外回りにもベンチやテーブルなど各個所に設置し、談話して頂いている。	○	常に清掃を心がけ気持ち良く利用して頂けるよう、季節の花や植物など楽しんで頂いている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 入居者の日頃の様子を観察しながら、今の生活を大切に個別支援を行っている。
- 入居者のプライバシーに配慮し家庭の延長で安心・安全を踏まえ、支援計画を立てその都度見直し、柔軟に支援を行っている。
- 入居者の体調面を全職員が把握し、介護職員・看護職員は連携を取り健康管理を充実させている。